

請 願 文 書 表

(子ども若者はぐくみ局)

受 理 番 号	1 1 0 9	受 理 年 月 日	令 和 3 年 9 月 28 日
件 名	学童う歯対策事業の継続及び子ども医療費支給制度の拡充		
要 旨	<p>京都市が取りまとめた行財政改革計画は、市の財政運営が危機的な状況にあるとして、市民サービスの見直しを迫っている。学童う歯対策事業もその一つに挙げられているが、同事業は他都市にはない優れた制度であり、国や他都市の水準を上回る施策を見直すことを理由に後退させるべきではない。</p> <p>私たち子ども医療京都ネットが昨年実施した市民アンケートでは、経済的に厳しい家庭ほど歯磨きや虫歯までお金も時間も掛けられない。小学生ではなかなか意識付けも難しく、虫歯治療が無料でないと言った声が多く上がっており、94パーセントが廃止しないでほしいと答えている。財政的観点からのみ制度をやめてしまえば、こうした声を拾い上げることさえできなくなることを懸念する。</p> <p>また、コロナ禍により、生活リズムを崩した子供たちの健康悪化も深刻で、学校の養護教諭からは肥満の増加、視力低下、虫歯の増加などの声が寄せられている。子供たちの健全な育成を目的とする学童う歯対策事業は、今こそ必要な制度である。</p> <p>子育て環境日本一を京都市はうたっているが、子ども医療費支給制度の現況はどうだろうか。子育て世代が進んで京都に住むということにつながっているだろうか。外来で3歳以上から月1,500円負担というのは、京都府内で最低のレベルであり、他の19の政令市と比べても相当に見劣りするレベルである。しかも就学前に高負担であるため、学童う歯の制度につなげるまでに空白期間（この間に口くう崩壊となつては元も子もない）が生じ、とても一貫した制度設計とは言えない。</p> <p>今回示された計画には、この二つの制度の一体化などに向けて、子ども医療費全体の観点から再点検を実施とある。学童う歯対策事業は是非とも存続させていただきたいが、仮に子ども医療費の外来月200円負担の対象を小学校卒業まで広げることができれば、他都市と比較してもそんな色ない前進と評価できるものとなる。</p> <p>ついでに、財政問題のみでの切捨て一辺倒ではなく、市民目線で一層の知恵を絞っていただき、学童う歯対策事業の継続と子ども医療費支給制度の拡充を願う。</p>		
請 願 者			
紹 介 議 員	河合ようこ, 玉本なるみ, 井上けんじ, とがし 豊		
付 託 委 員 会	教 育 福 祉 委 員 会		